

学校全体の取り組み

授業規律について	① 指名されてから発言させる。 ② 「はい」は一回または黙って挙手をさせる。 ③ 指名されたら「はい・立つ・です」 ④ みんなに聞こえる声の大きさを発音させる。(声のもののさしの活用) ⑤ 発言している人の方を向いて聞かせる。
持ち物について	① 4月に決めた物を持ってきているのかを探察、または点検する。そして、不要な物を持ってこさせない。 ② 机の横にたくさん物をかけさせない。 ③ 道具をわすれたときには報告させる。
掲示について	① 教室の前面はシンプルにする。
ノートについて	① 日付を書かせる。 ② 線を引くときは定規を使わせる。 ③ ノートの書き方を指導する。

評語	説明
A	十分に改善や工夫をした
B	おおむね改善や工夫をした
C	改善や工夫の努力が足りなかった
D	改善や工夫をしなかった

教科名	児童の実態	指導方法の改善と工夫	評価		
			2学期	3学期	
3年	思考力・判断力・表現力	【音楽表現の創意工夫】 ・音色やフレーズに気を付けたり、自分の思いや意図を表現に生かしたりする児童は少ない。 ・自分たちで音楽をつくったり、表現を工夫したりする活動の経験が少ない。 【音楽表現の技能】 ・歌唱についても、頭声発音をすることが難しく地声を張り上げる傾向にある。リコーダーでは運指、息のコントロール、タンギングの定着に差がある。	【音楽表現の創意工夫】 ・範唱や範奏を聴かせる際に、音色やフレーズ、歌詞の内容に気付かせるような発問や投げかけをして、工夫につながる指導をする。 ・ペアやグループで音楽をつくったり、表現を工夫したりする問題解決型の学習スタイルを設定する。 【音楽表現の技能】 ・歌唱については話し声と歌声を意識させ、曲にあった発声で歌うように指導する。リコーダーは個別指導の場を設定し、確実な定着を図る。	C	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【伝え合う】 ・意見交流の場では、言葉で伝えられる児童とそうでない児童の差がみられる。 ・発表や意見を聞く際に、相手の方を見ることがなかなかできない。	【伝え合う】 ・鑑賞では、体を動かす活動などで音楽の特徴をとらえて聴くように促し、感じ取ったことや気が付いたことを言葉で表す活動を短時間でも多く設定する。 ・聴く態度についても指導し、徹底を図る。	B	B
4年	思考力・判断力・表現力	【音楽表現の創意工夫】 ・音色や強弱、歌詞の内容など、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり感じ取ったりしながら表現の工夫につなげている児童が多く、曲想を感じ取って工夫を考えられる児童が多い。 ・音楽づくりや鑑賞において、全体的には活動のねらいに沿って取り組むことができている。しかし、音楽的な視点から主体的に課題や面白さを見つけたり、深めたりする児童は少ない。 【音楽表現の技能】 ・歌唱ではやわらかい声で歌える児童が多く、音色や強弱に気を付け、発声や音程を意識して歌う児童も増えてきている。 ・リコーダーにおいては、おおむね運指は定着しているが、タンギングの定着に個人差がある。また息づかいが強すぎる児童が多い。	【音楽表現の創意工夫】 ・表現の工夫をするポイントを明確にし、一人一人が課題意識をもって取り組めるようにする。必要に応じてワークシートを使用して考えをまとめさせる。 ・活動のねらいや方法を明確にした上で活動に取り組ませる。また、互いに関わる活動のできるだけ多く設定し、主体的に学習するスタイルを身に付けさせていく。 【音楽表現の技能】 ・曲想を意識させ、曲にあった発声で歌うように引き続き指導する。鑑賞から、どんな風に歌いたいのか、どんな表現がふさわしいかを想起させ、歌い方に結びつけていく。 ・曲の特徴にあったタンギングができるように、その曲にはどのような演奏がふさわしいかを考えさせたり、試したりするような場を設定する。また、必要に応じて個別指導をする。	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【伝え合う】 ・鑑賞の記述では、内容に個人差がある。 ・発表や意見を聞く際に、相手の方を見ることが徹底できていない。	【伝え合う】 ・課題を明確にして聴くようにする。音色の比較や、速さの変化などの分かりやすいものから取り上げて、全員が課題を共有できるようにする。発言から交流したり、参考になる記述を紹介したりして、学習が深まるようにする。	C	B
5年	思考力・判断力・表現力	【音楽表現の創意工夫】 ・音色や強弱、フレーズ、歌詞の内容など、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり感じ取ったりしながら表現の工夫につなげている児童が少ない。また、個人差が大きい。 ・楽器では音色の変化や追求をする児童が少ない。 【音楽表現の技能】 ・意欲が高く、美しい響きを意識して頭声で発音することができるが、互いの歌声を聴き合ったり、グループで高めていくことが困難である。 歌詞の意味を表現に生かしている児童が少ない。 ・リコーダーの運指は身に付いているが、タンギングの定着には個人差がある。 ・楽器ではフレーズ感や音色の変化を意識して表現できる児童が少ない。	【音楽表現の創意工夫】 ・発言内容やワークシートの記述から良いものを取り上げ紹介するなどして、意見交流の中から全体が高め合っているような授業の流れをつくる。 ・個人で考える時間とグループで考える時間を設定し、一人一人が課題意識をもって活動できるようにする。 【音楽表現の技能】 ・今後、合唱をする上で全体の声質、音色をそろえることが必須となってくる。互いの声を聴き合ってそろえて歌うことや、グループで協働できるように指導する。また、歌詞や曲想から表現に結びつける声を出す活動も取り入れて技能の定着を図る。 ・楽器合奏を取り入れて、パートのバランスや強弱などを意識した合奏ができるようにグループや全体で指導していく。	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【伝え合う】 ・鑑賞の記述では、記述はできるが、内容に個人差がある。 ・発表や意見を聞く際に、相手の方を見ることが徹底できていない。	【伝え合う】 ・課題を明確にして聴くようにする。音色の比較や、速さの変化などの分かりやすいものから取り上げて、全員が課題を共有できるようにする。発言の共有やペアやグループでの相談タイムなどを設定し、言語活動や協働学習の充実を図りながら深まりにつなげていく。	C	B
6年	思考力・判断力・表現力	【音楽表現の創意工夫】 ・歌唱では音色やフレーズ、強弱に気を付けて表現できる児童が増えてきた。また、声をよく響かせて歌う児童も多い。 ・グループでの音楽づくりや歌唱の発表も、意欲的・積極的に活動できている。曲想や歌詞の内容から工夫を考えられる児童も多い一方で、自分の意見が出せずにいる児童もいる。 【音楽表現の技能】 ・歌唱では、目指す歌い方を意識して美しい響きで意欲的に歌唱することができている。歌詞や曲想にふさわしい表現を意識できる児童も増えてきた。 ・リコーダーについては技能の定着に個人差が見られる。 (運指、息のコントロール、タンギング)合奏でも強弱や音色の変化できる児童が少ない。	【音楽表現の創意工夫】 ・今後鑑賞の時間を定期的に取り入れ、聴かせる際に、表現を考えたり工夫したりするポイントを絞り、主体的に考えられるようにする。強弱だけでなく、音色の追求やフレーズに注目させていく。 ・活動のねらいや方法を明確にし、一人一人が課題意識をもって主体的に学べるようにする。児童の考えや思いが表現に生かされることで、音楽に関わる楽しさや喜びを味わえるよう努める。 【音楽表現の技能】 ・卒業式に向けて歌唱では幅広い題材の曲を選び、表現の幅が広げられるように指導していく。 ・合奏の活動では、ただ合わせるだけでなく、音色を追及したり、曲想に応じて表現ができるように指導していく。	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【伝え合う】 ・話す人の方を見て聴く態度が定着していない。 ・意見交流の場面では、発言する児童に偏りが見られることがある。	【伝え合う】 ・全体に対しての発表だけでなく、小集団の意見交流の場も設定する。全体を高めるような内容については、その都度取り上げ、共有していく。	B	B